

なるほど！

イノシシ・シカの農業被害対策



イノシシ、シカなど野生動物による農作物の被害が、各地で問題となっています。中国四国地方では、特にイノシシによる被害が多く、被害内容は、農作物のみならず、ため池の堤体や水路など農業用施設にも及び、管理者の負担が大きくなっています。また、ため池堤体の掘り起こしは堤体を弱くし、近年の集中豪雨と相まって、災害の発生につながる危険性もあります。

ここでは、中国四国地方の調査例をもとに、イノシシ・シカの農地や施設への被害を少なくする方法をご紹介します。



管理されなくなったため池はイノシシの生活拠点になっている！

管理されなくなったため池を、野生動物がどう利用しているのか調べるために、夜間でも撮影できる赤外線センサーカメラで、ため池に集まる動物の行動を観察しました。

最もよく利用していたのは、イノシシです。イノシシは住宅近くでも頻繁に現れ、ため池を水飲み場やヌタ場（泥浴び場）として利用し、さらに、周辺の農地や農道でも餌をさがして辺り一面掘り起こしており、ため池を拠点に生活している様子がわかってきました。

ブヒ、ブヒ・・・♪



水飲み



泥浴び



餌探し



掘り起こし

ため池周辺でのイノシシの活動状況

ため池への侵入と被害を減らすために！

＜侵入させないように定期的な草刈りを＞

イノシシは用心深く、主に夜間に活動します。また、開けた場所に身をさらすことをとても嫌います。そのため、イノシシが身を隠し、安心して活動できる場所にならないように、できるだけ草が生い茂った状態をつくらないことが大切です。

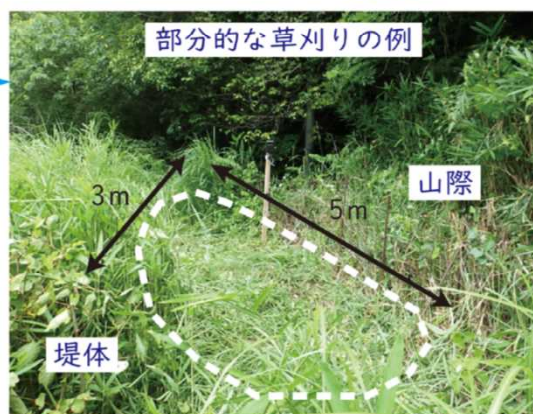
キョロ、キョロ・・・



見通しが良く、用心深い動物は活動しにくい



イノシシがよく使う場所を狙った部分的な草刈りも効果的



よく使う獣道や巣のあった場所での草刈り

<イノシシ被害を減らす簡易な方法>

例その1 水路の法面保護（掘り起こし防止対策）

イノシシは、水路などの構造物に沿って掘り進む習性があり、土砂を水路に落したり、水路壁が壊される被害も多く見受けられます。ワイヤーメッシュで法面をカバーする方法は、掘り起こしの防止に加え、不安定な足場を嫌がって避ける効果も期待できます。



材 料：ワイヤーメッシュ 3枚（サイズ2×1m、線径5mm、目合15cm）
J型鉄筋（ワイヤーメッシュ固定用）14本（長さ30cm、線径10mm）
評 価：設置後、イノシシがほとんど出没しなくなり、掘り起こしもなくなった。
注意点：掘り跡を放置すると水が溜まって崩れやすいので、設置前に埋め戻す。
草刈りに大きな支障はないが、ワイヤーメッシュの損傷や刃こぼれに注意

例その2 主要な獣道の遮断（侵入防止対策）

草が倒され、地面が踏み固まった獣道は、イノシシがよく利用している侵入経路です。その侵入経路を遮断するように柵を設置します。この対策は、100%侵入を阻止するものではありませんが、少ないコストと労力で、大幅に被害を減らすことができます。



材 料：ワイヤーメッシュ 3枚（サイズ2×1m、線径5mm、目合15cm）
鉄筋棒（支柱用）4本（長さ2m、線径16mm）
J型鉄筋（ワイヤーメッシュ固定用）6本（長さ30cm、線径10mm）
耐候性結束バンド（ワイヤーメッシュ結束用）
評 価：設置後、柵に近づくイノシシは見られなくなった。また、堤体での出没も減少し、掘り起こし被害は、大幅に減少した。
注意点：設置後、他の経路から侵入するようになった場合、必要に応じて追加設置する。

舗装道路からイノシシ、シカを侵入させない！

<侵入防止用グレーチング>

イノシシやシカは、偶蹄（ぐうてい）目という分類に属し、右図のように偶数に分かれた蹄（ひづめ）を持つため、水路や溝の蓋として使われるグレーチングの上を歩きたがらないことが知られています。

こうした特性を利用し、侵入防止柵が設置できない道路横断部をグレーチングにすると、イノシシやシカの侵入を防ぐことができます。



イノシシの足跡



シカの足跡



侵入防止用グレーチングの設置例

★注意点

- ・新たに設置する際は、しっかり奥行（距離）をとった方が効果的です。
- ・設置条件によっては、わずかな隙をついて侵入されてしまう場合もあります。設置後一定期間は観察を続け、状況に応じて以下のような改善策をとる必要があります。

コンクリートの路肩部分に肢を置いて通過



ブロックや杭を置いてサイドネットを押し出し、路肩を狭くする。

路肩の改善策



パネル接合部の幅広部分に肢を置いて通過



パネル接合部にゴムシートを立て、接合部上の肢の置き場を狭くする。

パネル上の改善策



資料の問い合わせ先：農林水産省 中国四国農政局 農村振興部 農村環境課（086-224-4511代）
作成協力：愛媛大学大学院 農学研究科 地域環境工学コース 農村計画学研究室